



もう5月になりましたが、新しい生活には慣れましたか？そろそろ疲れが出てくるかもしれないので、そんな時はくつろぎながら読書をして、心を落ち着かせてくださいね。それでは新刊の紹介です！

～今月の新刊～

「第22回電撃小説大賞〈大賞〉受賞作！」  
壊れてしまったこの教室で、一人ぼっちの革命がはじまる——

ある中学校で一人の男子生徒Kが自殺した。『菅原拓は悪魔です。誰も彼の言葉を信じてはいけない』という遺書を残して——。

自殺の背景には“悪魔のような中学生”菅原拓による、Kを含めた4人の生徒への壮絶なイジメがあったという。だが、Kは人気者の天才少年で、菅原拓はスクールカースト最下層の地味な生徒。そして、イジメの目撃者が誰一人としていなかったこと。彼らの接触の証拠も一切なかったことなど、多くの謎が残された。なぜ、天才少年Kは自殺しなければならなかったのか。

「革命は進む。どうか嘲笑して見てほしい。情けなくてちっぽけな僕の革命の物語を——」

悪魔と呼ばれた少年・菅原拓がその物語を語り始めるとき、そこには誰も予想できなかった、驚愕の真実が浮かび上がる——。

圧倒的な衝撃、逃れられない感動。読む人全てを震わせ4,580作品の頂点に輝いた衝撃作。



婚約者・坂庭真実が姿を消した。その居場所を探すため、西澤架は、彼女の「過去」と向き合うことになる。

「恋愛だけでなく生きていくうえでのあらゆる悩みに答えてくれる物語」と読者から圧倒的な支持を得た作品が遂に文庫化。《解説・朝井リョウ》

三体世界の巨大艦隊は、刻一刻と太陽系に迫りつつあった。地球文明をはるかに超える技術力を持つ侵略者に対抗する最後の希望は、四人の面壁者（ウォールフェイサー）。人類を救うための秘策は、智子（ソフォン）にも覗き見ることができない、彼らの頭の中だけにある。面壁者の中でただひとり無名の男、羅輯（ルオ・ジ）が考え出した起死回生の“呪文”とは？

二百年後、人工冬眠から蘇生した羅輯は、かつて自分の警護を担当していた史強（シー・チアン）と再会し、激変した未来社会に驚嘆する。二千隻余から成る太陽系艦隊に、いよいよ出撃の時間が近づいてた。一方、かつて宇宙軍創設に関わった章北海（ジャン・ベイハイ）も、同じく人工冬眠から目醒め、ある決意を胸に、最新鋭の宇宙戦艦に乗り組むが……。

アジアで初のヒューゴー賞長篇部門に輝いた現代中国最大のヒット作『三体』待望の第二部、衝撃の終幕！



累計20万部突破の県民性マンガ第3弾！あるあるネタに笑いながら、地理の勉強にも。

読み切りは2本。巻頭カラーの「地名の由来」に加え、巻末の長編読み切りの主役は島根さんをめぐる「世界遺産」の話。

もちろん県民性マンガも新ネタ満載。大ボリュームの280ページでお届けします！



この国の王になるのは、あたし！恭国（きょうこく）は先王が斃（たお）れて27年、王不在のまま治安は乱れ、妖魔までも徘徊（はいかい）していた。

首都連櫓（れんじょう）に住む少女珠晶（しゆしょう）は豪商の父のもと、なに不自由ない暮らしと教育を与えられ、闊達な娘に育つ。だが、混迷深まる国を憂えた珠晶はついに決断する。「大人が行かないのなら、あたしが蓬山（ほうざん）を目指す」と——

12歳の少女は、神獣麒麟（きりん）によって、王として選ばれるのか。



「思い出をあずかる？そんなことできるの？」累計23万部超の小説「チーム」シリーズのコンビが贈る最新作！

転入した小学校になじめないミケは、前の学校の日々を思い出していた。ミケが同級生の大河とともに訪れた石造りの家には魔法使いが住んでいて、子どもの思い出をあずかるという。ある日、前の学校の友達からのメールを読んで胸が痛くなったミケは魔法使いに思い出をあずけようとするが……。

崖の下のふしぎな空間を舞台にくり広げられる、友情ストーリー。

犯罪による父親の逮捕を機に瓦解した家族。出所後の復讐に怯える母親。家出し、消息不明の姉。罪なき罰を背負わされた北町貫多は17歳、無職。犯罪加害者家族が一度解体し、瓦解の中から再出発を始めていたとき、入所から7年の歳月を経てその罪の張本人である父親が刑期を終えようとしていた。

——表題作と“不”連作の私小説「病院裏に埋める」〈芝公園六角堂跡シリーズ〉の一篇「四冊目の『根津権現裏』」、「変化球的私小説」である「崩折れるにはまだ早い」の全四篇を収録。



現実とゲーム世界の境目が分からなくなる体験をさせる『夢幻』。好きなものやかわいいものなど、現実世界とのシンクロ率を高めたアバターを使った、創也と内人の新ゲームが始まる。竜王グループが開発する強力なセキュリティシステム（AKB24）が張り巡らされた町・レーヴルを舞台に、悪夢からの脱却を図る13人のプレイヤー。健一や志穂、竜王グループ開発部、システムハッキングをねらう産業スパイの影もちらほらし、胸騒ぎがとまらない！